

# 養育者からの言葉かけが反すうに与える影響

—養育者との親密性にも着目して—

○羽原陽・生塩詞子

(安田女子大学心理学部現代心理学科)

## 目的

私たちはこれまでに親から様々な言葉をもたらしている。野村・福井（2008）は親からの否定的な言葉が子どもの自尊感情の発達を妨げること、森下・松山（2014）は中・高時代の母親の受容的な言葉かけが女子大学生の母親への「信頼尊敬」を高めていたことを明らかにしている。このように親からの言葉かけは受け手の自尊感情や親への態度に影響を与えている。例えば親から叱られたとき、その言葉が頭から離れなかったなどの経験はないだろうか。このような思考をネガティブな反すうと言ひ、伊藤・上里（2001）は「人にとって否定的・嫌悪的な事柄を長い間、何度もくり返し考えること」と定義している。この傾向が高い人は抑鬱や精神的不健康につながることも明らかとなっている。また近年の親子関係について、田中・上村（2017）は青年期全体を通して親子間の心理的距離が変化しないパターンの存在を述べ、須藤（2021）によると、親子関係が分離ではなく「ともだち化」しているという。親への態度の形成には、子どもが親に安心感や信頼を抱いているか否かに関わっているのではないだろうか。

そこで本研究では、養育者からの言葉かけに焦点を当て、養育者からの肯定的・否定的な言葉かけがネガティブな反すうと養育者への親密性に与える影響について検討した。なお本研究では「親」ではなく、「養育者」という言葉を用いた。

## 方法

**対象者：**青年期の男女 123 名（女性 79 名，男性 43 名，回答しない 1 名，平均年齢 20.54 歳），**調査方法：**Google フォームを用いたアンケート調査を 2022 年 7 月に実施，**調査内容：**予備調査で得た 9 個の話題（勉強，学校外の活動，進路将来，性格，外見，生活習慣，結果，対人関係，学校生活）を提示。①肯定的な言葉かけの頻度②肯定的な言葉かけの良い・悪い影響③否定的な言葉かけの頻度④否定的な言葉かけの良い・悪い影響⑤言葉かけの印象⑥親への親密性尺度（水本，2018）⑦ネガティブな反すう尺度（伊藤・上里，2001）で回答を求めた。**倫理的配慮：**「言葉かけの具体的な内容を尋ねるものではないこと」と「参加は自由意志によるものであり，途中で

回答を中断してよいこと」などを注意喚起した。

## 結果と考察

養育者からの各話題における否定的な言葉かけの頻度を説明変数，ネガティブな反すうを目的変数としてステップワイズ法で重回帰分析を行った結果，【生活習慣】に関する否定的な言葉かけのみがネガティブな反すうに弱い有意な正の影響を与えていた ( $\beta=.30, p<.01$ )。野田・城月（2016）は，生活習慣の乱れが否定的な自動思考を高めることを示している。調査協力者の生活習慣の詳しい内容は不明であるものの，生活習慣に関する否定的な言葉かけの多さは，実際の生活習慣の悪さを示しているのではないだろうか。元々自動思考を高めるとされる生活習慣の乱れに加え，養育者から否定的な言葉かけをされることでネガティブな反すうの悪循環につながっていると推察される。

次に，養育者からの各話題における肯定的な言葉かけの頻度を説明変数，親への親密性を目的変数としてステップワイズ法で重回帰分析を行った。本要旨では結果の一部を報告する。【性格】に関する肯定的な言葉かけが下位尺度の 1 つである《親への心づかい》に弱い有意な正の影響を与えていた ( $\beta=.31, p<.01$ )。森下・後藤（2016）は，子どもの特性に関するポジティブな言葉かけが子どもの自尊感情を高めていたと明らかにしており，性格について褒められたりすると，自分自身を好きになることができ，同時にそんな自分を育ててくれた養育者に対しても感謝の念を抱くことで，養育者が楽しい生活を送れるよう行動することができると考えられる。また，【学校生活】に関する肯定的な言葉かけが下位尺度の 1 つである《親の価値観へのとらわれ》に非常に弱い有意な正の影響を与えていた ( $\beta=.18, p<.05$ )。高妻（2018）は，励ましや応援の言葉が逆に自信を無くさせることがあるという。これより，青年期中期までの大半を過ごす学校という場所で“頑張らないといけない”といったプレッシャーにかわる可能性が推察され，養育者からの評価を気にすることに繋がるのではないだろうか。